

視点・論点・ところてん

「運動会は春がいいの？秋がいいの？」

先日こんなニュースが飛び込んできた。

5月11日「熱中症か、運動会中の小学生5人搬送 埼玉・越谷」また、6月には「大阪の枚方市の中学校で18人熱中症、6人重傷か」といったものも。

温暖化の影響か、近年残暑が厳しく、秋に運動会練習を行う際に熱中症を懸念して、春に運動会を行うところが多く見受けられるようになった。しかし、大阪支部の編集局長は「春は体が暑さに慣れていない状態にあり、そんな中で急に体温が上がる運動を行うことは熱中症になりやすい危険性がある」と述べている。子どもの安全管理が叫ばれる中、各学校、自治体も四苦八苦している所だろう。そこで今回の視点論点では「運動会は春がいいの？秋がいいの？」として、いつものように議題に批判的な論調を述べるのではなく、この記事を読む皆さんには是非、議題について考えていただきたい。

2、各自治体の反応

私の勤める南河内の各自治体でも、運動会の時期は春、秋両方に分かれている。河内長野市では、もともと9月下旬に行われていた運動会を、熱中症対策として10月中旬にずらした。また、隣の富田林市では今年度から運動会を市内全小学校は春に実施している。この経緯について同志会員であり、現富田林市立久野喜台校長の澤口氏によると「様々な行事の関連性と、熱中症対策のため」とのことだった。それとは正反対の動きをとる自治体もある。それは大阪狭山市だ。大阪狭山市は2学期制、春運動会をいち早く取り入れた革新的な自治体である。しかし、その2学期制も、春運動会も他の自治体同様に3学期制、秋運動会に2年前に戻している。このことについて、現在大阪狭山市で勤務している同僚のお父さんに話を聞いた。「2学期制を3学期制に戻したのは、教科が増えるにあたって時数が足りなくなったため（1学期と2学

期の間に休みがある)」であり「それに伴ってもともと3学期制の時に秋に行っていたので秋に戻した」というのが大きな理由であるとのこと。「春にはスポーツテストや水泳の準備もあるので、秋の方がいい」という意見もある。羽曳野市では校舎の大規模改修に伴って春運動会か秋運動会を学校長裁量で判断しているそうだ。

3、春のメリット、デメリット

秋のメリット、デメリット

春に運動会を行うことは気候が秋に比べて安定しているということもあるだろう。また、最高気温も9月下旬に比べて低いことが挙げられる。子どもたちの体にも秋同様の注意を払えば、秋よりかは熱中症のリスクも少ないだろう。また、運動会を学級づくりに位置づけ、取り組む意味合いもあるだろう。

しかし、開催にあたって、運動会の時期によっては年度始まりから運動会に向けて動き出す必要があり、あの年度当初の忙しさの上に運動会のことで動き出さなければならず、教員や子どもたちの負担は大きいと言える。また、クラスが始まったばかりで子どもたちの事もよくわからないまま運動会に向けて動き出さなければならず、低学年、特に1年生にとっては目の回る忙しさであることは間違いない。

秋開催は、夏休みやそれ以前に準備ができることは大きい。運動会での実践の幅は広がる。また、小規模校などでは、高学年として組体を行われることが多い。その際に春よりも秋の方

が特に5年生の発達を考えた際に、取り組みを進めやすいという考えもある。

しかし、近年の残暑は異常とも呼べる暑さで、そんな中、子どもたちを炎天下に立たせダンスや民舞、組体の指導を行うことは、危機管理上問題があると言える。ここ、何年かは秋も涼しく過ごしやすい年度が続いたが、今年も過ごしやすい秋になるとは限らない。

4、運動会で何をねらうのか？

個人的な話であるが、私は春運動会も秋運動会も経験している。結論から言うと私は秋運動会がいいと思っている。準備期間に猶予があることが一番の大きな理由だ。そこには「運動会で何をねらうのか」ということがやはり大切だと考える。結論じみたことを言うが、運動会に向けてどんな力を付けて運動会で発揮させたいのか、運動会をどのような行事として扱うのかを考えなくてはいけないだろう。春運動会ではなかなか、ねらいを持った運動会を行うことはできないのではないだろうと私は考える。

手前みそではあるが、同志会員の佐々木氏と同勤した時に、運動会で子どもたちの自治力を育て、発揮し、祝祭性を盛り込み取り組んだ運動会を行ったことがある。これは秋の運動会だった。もう、10年以上前の事であるが、あの時のような運動会はもう行われることはないのだろうか。

(文責 東條)

